

CONTENTS COMBAT

2016.Jan.
No.478

1

Cover Design
Favorite Graphics Inc.
Cover Photo
TOMO HASEGAWA
©WORLD PHOTO PRESS 2016

※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。



【第1特集／AA-12】
006 独占取材 東京マルイ
電動フルオートショットガン
AA-12 その実力

008 TOKYO MARUI
電動フルオートショットガン
AA-12
●Photos&Text by Tomo Hasegawa
016 **AA-12 開発秘話**
●by Takeo Ishii
021 「ショットガン好き」垂涎のモデル AA-12
●by Hiro Soga

【第2特集／ミリタリー】
022 **THE CLONE**
Camouflaged Wargame Fighter

028 **HELIKON-TEX**
2016 Winter New Products
OUTDOOR TACTICAL PANTS&
PATRIOT HEAVY FLEECE JACKET
●Photos&Text by Tomo Hasegawa

034 **The Equipments of the U.S. Force**
[現用米軍装備力タログ]
2015年海兵隊FORCE RECON&MEU最新装備Part.2
●解説:松原隆 ●撮影:山崎 学

054 **自衛隊のカゴ**
平成27年度自衛隊観艦式
●Report by Masayuki Kikuchi

085 **Militaria Roundup!**
WWIIドイツ空軍降下猟兵 Part.3
●解説:菊月俊之

【第3特集／トイガン】
044 **WESTERN ARMS**
世田谷ベース・モデル第4弾
インターセプターII／ノバックサイト・モデル&
インターセプターI／ドットサイト・モデル
●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

051 **WESTERN ARMS**
世田谷ベース・モデル第3弾
スペシャルVer.
M1934スーパー・ロングサイレンサー・モデル
●Photos & Text by SHOTGUN MARCY



137 KNIFE

138 第36回 JKG KNIFE SHOW
142 スタッフ通信 from Knife Magazine Staff

004 **COMBAT FRONT LINE**
058 **NEW GENERATION STYLER**
●fujiwara

068 **FEAR NOT THE DARK.....**
Power of Light
SURE FIRE
act14 壊れても強いシユアファイヤ
●Photos & Text Tomo Hasegawa

072 **トイガンニュース**
072 WA L.A. ヴィッカーズ・カスタム《リアルスチールVer.》
073 WA リプロダクション・シリーズ
074 タナカ M40ベトナム／カートリッジVer.
076 タナカ コルト・バイソン.357マグナム6インチ《RモデルHW》
077 タナカ S&W M360J サクラHW

078 **兵装嗜癖**
●by fujiwara
080 **Goods & Accessory**

084 **ミリいじ技研**
096 **PRESENT**

114 **防衛・セキュリティー見本市**
DSEI2015
●レポート:清谷信一(Shinichi Kiyotan)

120 **PROJECT NINJA**
●morizo(東京装備BAKA)
124 **グラフィック・コンバット**
●イラスト・解説:坂本 明

128 **走って撃って楽しんで**
サバゲ放浪記 ゆい散歩 其の14 千葉編
取材:上矢ゆい

130 **最新作『007 スペクター』公開記念!**
MARUZEN Walther PPK/S
●by Takeo Ishii

132 **サバゲ三等兵**
●by 橋本知之

184 **中田商店グッズ**
186 **S&Grafグッズ**

097 **GAME OVER THE TOP**
USシューティングライフ! ●鮫島宗貴
102 仙台塩釜港 国際テロ対策合同訓練 ●取材:菊池雅之
106 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ
108 トイガンズ・ジャンクション
156 【新連載】装備エンズー道 ●福田真夫
157 APS公式記録会 in 錦糸町
161 バックナンバーリスト
162 ミリタリー・コレクション
164 AA-12と映画の話。
166 A STITCH IN TIME
167 死ななきや食える! 救荒食指南
168 狩野健一郎のシネマ放浪記
169 狩野健一郎の新作DVD紹介
170 蛙のゆびさき(中山 蛙)
172 戦車兵通信 WORLD OF TANKS
174 コンバットマガジン・インフォメーション・センター
175 読者プレゼント応募方法
176 編集後記



TOKYO MARUI

電動フルオートショットガン

AA-12

AUTO ASSAULT-12

「同じ6mmBB弾を使うため、銃の形式や形状は威力に関係しない……」

エアソフトガンに立ちはだかる壁であり、ひとつの限界だった常識。

しかし、それをブチ破る製品が新登場。

東京マルイ“AA-12”。

『電動』・『フルオート』・『ショットガン』

東京マルイ製品の“面白さ”が新システムに融合。

これまでのどの製品とも違う。

高性能な破壊力を備えた“新次元”のエアソフトガン!!

Photos&Text by Tomo Hasegawa

東京マルイ

☎03-3605-3312

www.tokyo-marui.co.jp/



AA-12で水たまりを撃射!
3発のBB弾が同時着弾する威力を見よッ!

AA-12

ELECTRIC AUTOMATIC
SHOT GUN開発
秘話

by Takeo Ishii



開発スタッフが顔出しでインタビュー取材に応じるのはおそらく東京マルイ史上初！皆さんが手にされているのが動作確認用の3Dプリンターモデル。手前はショーやイベント展示用に制作された透明ディスプレイモデル。真ん中が量産試作品。



AA-12が試射できる、とあって大盛況だった9月の「東京マルイフェスティバル2」。

久々の「マルイズム」
炸裂超大作！

今年の5月14日（木）～17日（日）の4日間にかけて開催された「第54回静岡ホビーショー」が、ここ数年にない異様な盛り上がりを見せたことは、読者諸兄の記憶にも新しいのではないだろうか？

東京マルイが何の前触れもなくまさに突然、「AA-12」というデッキいデッキい隠し球をいきなり披露し、全国、いや全世界のトイガンファン、サバイバルゲーマーの間を、衝撃が凄まじいスピードで走り抜けた。

初日＝5月14日の昼頃には、会場を訪れたショップスタッフの方々やマスコミ関係者のSNSやブログは「AA-12速報」一色で埋め尽くされた感じになり、土日の一般公開日にはそれがさらに拡大！東京マルイが久々に放つ完全新規・新ジャンルの超大作に、まさしく文字通りみんなが“度肝を抜かれた”のだ。

しかもこのAA-12、“史上初の電動フルオートショットガン”なのだということからますますワケがわからない。

“おおお！久々に東京マルイズム炸裂の、大バカ超大作だなぁ！”と、元社員のぼくは本当に嬉しく思ったものだ。

9月5日（土）と6日（日）には、昨年に引き続き東京・秋葉原で「東京マルイフェスティバル」が開催され、なんとここでは17mもの距離を確保した特設レンジで、来場客がAA-12を実際に撃つことができた。

通常は「社員が撃っているところを見せる」か、お客様に手に取らせるにしても「空撃ち」だけ。あるいはレンジがあっても距離は数mの「ほんの試射程度」なので、このフェスティバルでのAA-12は、東京マルイの新製品プロモーションとしては異例中の異例といえた。ここで撃ったAA-12の性能にま

た驚かされた。「おバカ超大作」だと思っていたAA-12が実際に手に取るとズッシリ重く、なんというか「身が詰まっている」感じ。そして各部の仕上がりやセレクターの感触、トリガーの感触がじつに精密だったのだ。



3発のBB弾が17m先の上半身ほどの大きさのラクタングル標的に、それも1片が20cm位のトライアングル編隊を組んで吸い込まれるように命中する快感！まるで「プレデター」の肩に載っている、あのレーザーサイト風のプラズマ砲を手中にしているかのような充実感、心強さ。

“こんなモノをゲームで使われたらたまらんぞ……！相手が買う前にこっちが買わなくちゃ！”

3発同時発射の恐るべきフルオート弾幕！これを実際に目の当たりにし、またご自身で経験してそう思ったサバイバルゲーマーは、きっと大勢いらっしやっただに違いないのだ。

開発チームにお話を聞く

東京マルイは「AA-12」のモデルアップに3年前から取り組んでいた。開発には2年を要した。また外部はもちろん、社内でもごく一部の開発スタッフだけが知る状態で、超極秘裏に計画を進めてきたという。

「じつは私の実家はホビーショップなのです。いまは兄が経営していてよく新製品についてあれこれカマをかけられるのですが、とにかく何も言えませんでした」

と、この3年間、「家族にさえ言えない」という、あたかも諜報部



銃本体に付属してくる箱型マガジン（手前）は装弾数93発。別売オプションのドラムマガジン（奥）はナント約3,000発！しかも東京マルイ初となる電動巻き上げ式。



17mレンジでの大規模試射、というのは、東京マルイ新製品としては異例のプロモーションだった。



THE CLONE

Camouflaged Wargame Fighter

彼らは「偽装」に手段を選ばない。

ある者は年月をかけ実物を収集し

ある者はレプリカを実物に見えるように加工し

またある者は入手困難なアイテムをイチから創作して「偽装」を表現する。

方法はさまざまだが目指すのはどれだけ実際の兵士の「偽装」を演じられるかだ。

ここに紹介する彼らの装備品はすべて私物である。

写真／三田智仁 構成・文／恵一郎 撮影協力／デザートストーム川越



ヘリコンテックス社のタクティカルウェアシリーズ。
独自のデザインを貫き、
進化する“都市型”戦闘服として最前線を突き進む。
パンツ、ジャケット、シャツと各種ラインナップが充実。
様々な組み合わせから好みの機能が抽出できるため、
今や絶大な人気を誇っている。
システムの中核となるのはやはりパンツ。
なかでも注目したいのが2015年の新作
“アウトドア・タクティカル・パンツ”。
これまでの“タブ”で“実用的”なデザインに、
新素材により驚異的な“柔軟性”が加味された。
これにより“動きやすさ”と“快適”さが格段に進化。
……見逃すな!!

HELIKON-TEX

2016 Winter New Products

OUTDOOR TACTICAL PANTS & “PATRIOT” HEAVY FLEECE JACKET

Photos&Text by Tomo Hasegawa

中田商店 ☎03-3839-6866 www.nakatashoten.com/

ヘリコンテックス/ アウトドア・タクティカル・パンツ

今回紹介するのはHELIKON-TEX社のタクティカルウェアシリーズの注目モデル、“アウトドア・タクティカル・パンツ（以下OTP）”だ。

前回のレポート（本誌2015年10月号）から、実は紹介したくてたまらなかった逸品モデルだ。

他社製品に比べスリムでスタイリッシュな基本デザインは、人気の“アーバンタクティカルパンツ”から踏襲しているが、生地に“4Wayストレッチナイロン”という新素材を使用。ソフトシェルの表面みみたいな“シャラシャラ”した手触りで、柔らかくて伸縮性に富んだ特徴がある。

このタイプの素材は、どうしても脆弱感が否めないという記憶がつきまとう。以前、他のアウトドア系アパレルメーカー製品で似た素材があり、いくつも試した事がある。柔らかく着やすいのだが、破けやすく、ちょっと引っかけてただけで伝線してしまった。さらに辛いのが毛玉。気に入ったパンツが毛玉だらけになったりするのは悲しいものだ。

ところが、幸運にも試作品を授かり、この4ヵ月間試着してみても自信を持った。これは良い!

まずなんといっても履き心地の良さ。フィット感があるのに、ツッパリ感などは一切無し。屈む前に膝の上を掴んでチョイッと引き上げる必要はない。どんなしゃがみ方もお構いなしにできる。

これまでのタクティカルウェアは、動きやすさを配慮し、太めに作られて



ヘリコンテックス社のタクティカルウェア・シリーズ。そのメインとなるのはやはりパンツ。新素材の4Wayストレッチナイロン生地により、新たな機能性を備えた。アウトドア・タクティカル・パンツが、進化戦闘服システムの核になる。

世田谷ベース・モデル 第4弾!

1056 INTERCEPTO SERIES



SETAGAYA A.F. BASE FOURTH MODEL 《INTERCEPTOR II/NOVAK SIGHT MODEL》



世田谷ベース・モデル第4弾
《インターセプターⅡ/ノバックサイト・モデル》

- 全長：約220mm
- 銃身長：約114mm
- 重量：1,025g
- 装弾数：33+1発
- 価格4万1,040円。
- 絶賛発売中!!



グリップに埋め込まれたメダリオンは、世田谷モデルを象徴するアンティーク・フィニッシュのロード・ストローラー。



スライドにも、彫刻機で刻まれた精密なロード・ストローラーのマーキング。

満を持して登場!! ファン待望の 世田谷ベース・ ハイキャップ.45

2014年の末に登場して大きな反響を呼んだ所ジョージ/ウエスタンアームズ (以下:WA)、夢のコラボレーション・モデル、“1056世田谷A.F.ベース・モデル”。日本の国民的タレントであり、独自のセンスで大人の遊び心を追求する所ジョージさんが、モデルガンの時代から熱烈な

ミリタリー・テイストを前面に押し出した世田谷モデル第4弾のインターセプター・シリーズ。フルパターンの世田谷モデル専用刻印を、彫刻機でシャープに刻んだ、スーパー・コレクション・アイテムだ。





平成27年度 自衛隊 観艦式

海自が世界に誇る3年に一度の巨大イベント、観艦式。今年10月18日をおよび15日を事前訓練として、計3日間にわたり実施された。艦艇50隻・航空機61機が参加。海自艦艇だけでなく、オーストラリア、フランス、インド、韓国、アメリカの5カ国6隻の艦艇も自衛隊創設を祝った。また42年ぶりとなるブルーインパルスのフライトも行なわれた！

自衛隊観艦式の歴史

10月18日、自衛隊創設を記念し、相模湾において自衛隊観艦式が行なわれた。観艦式とは海の上で行なう艦艇によるパレードの事で、古今東西、海軍やそれに類する組織が実施している行事の

ひとつだ。この式典に参加する最上位の者を観閲官と呼び、基本的にその国の国家元首や軍の最高指揮官などが務める。観閲官は、各部隊の装備や練度を点検するという目的がある。この行為を観閲と呼ぶのだ。

観艦式の起源は、1341年英仏百年戦

争の中のブルターニュ継承戦争に出撃する時に、英国のエドワード3世が、自分が指揮する艦隊を観閲したことが始まりといわれている。それ以降、観艦式は世界中に普及していった。

日本での初めての観艦式は、明治元年3月26日に天保山沖で行なわれた。

この時観閲官を務められたのは明治天皇であった。天保山から停泊する7隻(内1隻はフランス海軍艦艇)を観閲した。そして後にも先にも日本最大規模の観艦式となったのは、1940年10月11日、横浜沖で行なわれた紀元2600年特別観艦式だ。艦艇98隻、航空機527機が

参加。戦局の悪化から、これが最後の観艦式となった。

時は流れ、海自となってから初となる観艦式は、1957年10月2日に行なわれた。1960年11月2日に第2回目が行なわれ、1973年までは毎年実施された(1963年は開催せず)。しかしオイルショックの影

響を受け、これ以降、観艦式は中止されるも、1981年に再開。だが、不定期実施となってしまった。

1996年より陸海空自衛隊が持ち回りで記念式典を実施する事となり、1997年に海自が観艦式を実施。これ以降3年ごとのローテーションとなった。